

JB I B 社内の意識共有に課題

JB 評 企業の生物多様性保全で

企業と生物多様性イニシアティブ (JB I B) は 12 日、会員企業 37 社に向けたアンケート調査で、生物多様性保全について社内の意識共有が不十分と答えた企業が増え、中でも役員や社員への啓発が不十分とする声

が過去最多だったことなどを明らかにした。生物多様性条約に基づき、アンケートで各会員企業の取り組み状況を評価する「JB I B チャレンジ 2020」。12 項目のチェックリストから成り、それぞれの項目が「できている」のか回答するもので、今年で 6 回目となる。12 のうち 7 つの項目で、前回を上回る企業の取り組みが見られた。中でも生物多様性にかかわる①原材料調達基準の策定②ライフサイクル全般の影響の配慮③影響を最小化する努力④生物資源の公正な利益分配——の 4 項目は 10 ポイント以上増加。サプライチェーンを含む事業全体での取り組みが浸透しつつあると分析している。

一方で、社内の意識共有にかかわる項目が軒並みポイントを下げた。ポイントを下げたのは、生物多様性への①依存の把握と社内共有②影響の把握と社内共有③全社方針と目標の策定④役員・社員の啓発教育⑤事業所周辺の敷地管理——の 5 項目。いずれも 8 割以上が「できていない」と回答しているが、昨年よりも減少。役員・社員への啓発教育は 2010 年の第 1 回調査時よりも減少しており、会員企業に取り組みを後押しする方針を示している。

「JB I B チャレンジ 2020」の 12 項目のチェックリストから成り、それぞれの項目が「できている」のか回答する

もので、今年で 6 回目となる。

12 のうち 7 つの項目で、前回を上回る企業の取り組みが見られた。中でも生物多様性にかかわる①原材料調達基準の策定②ライフサイクル全般の影響の配慮③影響を最小化する努力④生物資源の公正な利益分配——の 4 項目は 10 ポイント以上増加。サプライチェーンを含む事業全体での取り組みが浸透しつつあると分析している。

一方で、社内の意識共有にかかわる項目が軒並みポイントを下げた。

ポイントを下げたのは、生物多様性への①依存の把握と社内共有②影響の把握と社内共有③全社方針と目標の策定④役員・社員の啓発教育⑤事業所周辺の敷地管理——の 5 項目。いずれも 8 割以上が「できていない」と回答しているが、昨年よりも減少。役員・社員への啓発教育は 2010 年の第 1 回調査時よりも減少しており、会員企業に取り組みを後押しする方針を示している。